

# 診療予定 カレンダー

受付時間	日	月	火	水	木	金	土
午前9:00～午前12:00 (初診～11:30)	●	●	●	△	●	●	△
午後2:30～午後6:30 (初診～6:00)	●	●	●	△	●	●	△

## 2010年6月

日	月	火	水	木	金	土
		1 全日	2 休診	3 全日	4 全日	5 休診
6 休診	7 全日	8 全日	9 休診	10 全日	11 全日	12 休診
13 全日	14 全日	15 全日	16 休診	17 全日	18 全日	19 休診
20 全日	21 全日	22 全日	23 休診	24 全日	25 全日	26 休診
27 全日	28 全日	29 全日	30 休診			

6日(日)は研修のため臨時休診いたします。ご了承ください。

## 2010年7月

日	月	火	水	木	金	土
				1 全日	2 全日	3 休診
4 全日	5 全日	6 全日	7 休診	8 全日	9 全日	10 休診
11 全日	12 全日	13 全日	14 休診	15 全日	16 全日	17 休診
18 全日	19 休診	20 全日	21 休診	22 全日	23 全日	24 休診
25 全日	26 全日	27 全日	28 休診	29 全日	30 全日	31 休診

19日(月)は祝日のため休診いたします。

当院サイト掲載の情報もご利用ください。 <http://www.azusawaseikei.com>

あずさわ通信 第19号

2010年6月1日発行

発行元: あずさわ 医療と癒しの融合

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢2丁目36-13  
マツエクリニックビル5F・6F

小豆沢整形外科

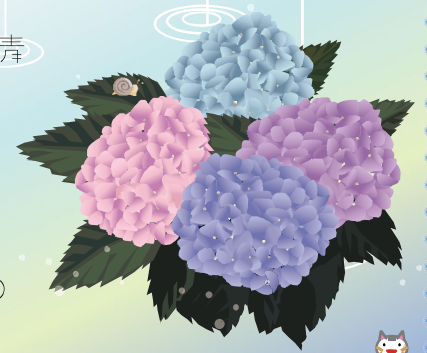
☎03-5916-4970 03-5916-4977

# あずさわ通信

第19号  
2010年6月1日発行  
あずさわ 医療と癒しの融合  
小豆沢整形外科

雨の季節は憂鬱になりがちですが、雨に濡れたあじさいを観るのは、心が洗われた気持ちになります。

あじさいの花の色について、「土が酸性ならば青色、アルカリ性ならば赤色」というのは、誰しも一度は聞いたことがあるはずですが、土壌のpH(酸性度)は花の色を決める要素の一つに過ぎず、他にも、発色に影響する補助色素(助色素)や、アルミニウムイオン量、開花からの日数などの影響を受けて、色が変わるそうです。



## 健康情報

## 患者様の声 — 小林和樹さん —

今回は赤羽台にお住まいの小林和樹さん(81)のお話を伺いました。

小林さんは劇団「芸術劇場」の演出家・代表として今も劇団を率いる現役の芸術家です。



小林 和樹さん

(以下、「小」は小林さん、「平」は院長の略です。)

平: 休診日にご足労いただき、有難うございます。

小: 今日は次の公演の稽古の途中で抜けてきました。

平: そうでしたか。御多忙のところすみません……。先日3月10日、初めてご公演を拝見しまし

た。朗読劇「3.10東京大空襲 戦争鎮魂曲 若き死者たちの詩」です。空襲に遭い逃げ惑い、火に追い詰められて死を遂げた10万人の絶叫が聞こえるような大迫力に胸を打たれました。



3月10日撮影

小: 来ていただき嬉しかったです。

東京大空襲のことは今では知らない人が多くなり、朗読で戦争記録を語り継ぐのは私たちの務めだと思っています。



内面へ続く⇒

## 健康情報

## 患者様の声 — 小林和樹さん —

平:意味深いご活動ですね。ところで小林さんの今までの歩みをお聞かせいただけますか？

小:はい。昭和4年長野出身。海軍兵学校在学中に敗戦になりました。その後、東京の大学に入り、在学中に友人に誘われて劇団に入ったのが演劇との出会いでした。卒業後は所属していた劇団の方針と自分の価値観が合わず、仲間7人とその劇団を脱退し、1958年「劇団芸術劇場」を立ち上げました。以来私たちは、「リアリティの追求」を理念に掲げ活動してきました。

平:理想に燃えていらっしゃるのでしょうか。



小:団員7人で始めましたが、どんどん団員が増えて、最盛期は50人以上メンバーがいました。年間70回公演していましたよ。ゴーリキ作「どん底」は50回以上、モリエール作「町人貴族」は1,100回以上も上演しました。

平:それは凄い回数ですね！

小:公演で全国を回りました。沖縄以外の全ての県で上演した経験があります。

平:半世紀以上、劇団リーダーを務めていらっしゃることに心から敬服いたします。

小:設立からもう52年になりますが、そんな長い時間が経った感じがしません。

平:充実なさっているのでしょうか。ところで小豆沢整形外科に来院なさったきっかけは何でしたか？



小:舞台演出で長く座っているせいか、徐々に腰が苦しくなってきた、近所の赤羽台診療所に通っていましたが、その先生からここ小豆沢整形外科を紹介してもらいました。平成17年9月に初めて伺いました。

平:初診時は相当に痛そうでしたね。

小:はい。腰と足が痛くて通うのもやっとでしたが、静脈注射やブロック注射、リハビリなどの治療を根気強く続けているうちに、足腰の症状はほとんど無くなりました。

平:本当にがんばっていらっしゃる

ましたね。

小:何とかして治したいと必死でした。



平:改善なさり何よりです。5年前の当院の印象はいかがでしたか？

小:も、リハビリも、看護師さんも先生も、皆さん家庭的で優しくかったです。一度とても体調が悪くて他の病院に紹介された時などは看護師さんが病院まで連れて行ってきて……。家庭的な良い雰囲気は今でも変わらず受け継がれていますね。

平:有難うございます。その他、何かお気づきの点はありますか？

小:整形外科以外の症状や悩みも相談に乗っていただき、助かりました。それから以前、平先生にお聞きした「医療には理念がなければならない」という言葉に非常に共感しております。

平:今後とも健康面で精一杯のサポートをさせて下さい。最後に小林さんの目標などをお聞かせ

いただけますか？

小:最近は小規模な公演が続いていますが、また大きなホールで大きな芝居を上演したいです。若手からベテランまで、声を掛ければ集まってくれる役者仲間が大勢いますし、演目の準備も出来ています。ホールさえ都合が付けば実現できるはずですよ。

平:是非成功させて下さい。確かな目標をお持ちになり、挑戦を続けていらっしゃる小林さんのお姿に、大いに学びました。今日はお話いただき、有難うございました。



6月3日から6日までの4日間、鶯谷近くの会場で、小林和樹さん演出の朗読詩劇「啼いて血を吐くホトトギス」が上演されます。俳人・正岡子規を深く知るチャンスです。小林さんご自身も出演予定。詳しくは別紙チラシで。



お蔭様で、当院にご登録いただいた患者様の人数(=診察券発行数)が、去る5月18日に「1万人」となりました。(2005年8月2日開院から4年10ヶ月あまり)この場をお借りして、改めて当院をお選びいただいた方に感謝いたします。今後とも、皆さまの「快」へのお手伝いに励みます。どうぞよろしくお願い申し上げます。